

第2回佐伯区まちづくり懇談会 会議要旨

1 開催日時 令和元年（2019年）6月18日 午後3時00分～午後5時00分

2 開催場所 佐伯区役所6階 大会議室

3 出席者

(1) 委員（16人中16人出席）

ア 学識経験者 平田委員

イ 各種団体の関係者 井唯委員 井戸委員 上土井委員 木元委員 國澤委員 久保田委員
清水委員 鉄村委員 橋本委員 肥後井委員 古川委員 増田委員
益本委員 光井委員 六拾部委員

(2) 事務局（区）

佐伯区長、副区長兼市民部長、厚生部長、農林建設部長、区政調整課長、地域起こし推進課長、
農林課長、地域起こし推進課職員

4 議題

(1) 佐伯区のまちづくりの方向性等について

(2) 区のまちづくりの方向性に基づく主な取組について

5 公開・非公開の別 公開

6 傍聴者

(1) 一般傍聴者 1名

(2) 傍聴者（報道関係） 0名

7 会議資料

(1) 議事資料

ア 佐伯区のまちづくりの方向性等について

イ 区のまちづくりの方向性に基づく主な取組について

(2) 参考資料

ア 第1回佐伯区まちづくり懇談会会議要旨

イ アクションプランイメージ

ウ 委員への事前アンケート集計結果

エ 60歳からの輝き方 ～地域に役立つ仕事おこし～

8 発言の要旨

[開会]

[議事]

平田座長

本日の議事に入る。

本日の議事は2つで、1つは佐伯区のまちづくりの方向性等について、もう一つは、区のまちづくりの方向性に基づく主な取組についてであるが、前回のまちづくり懇談会の開催から約4カ月が経過しているので、まずは全体スケジュールを含め、改めてこれまでのおさらいを事務局から説明をお願いする。

事務局（河部地域起こし推進課長）

(配付資料により説明)

平田座長

それでは、区のまちづくりの方向性と区の目指すべきまちの姿について議論していただきたい。

特に区のまちづくりの方向性については、今回のまちづくり懇談会で最終案としてまとめ、総合計画審議会での審議に反映させなければならないので、御協力をお願いします。

これらに関しては、前回のまちづくり懇談会において事務局が作成した案をもとに議論していただき、さらに3月末までに意見や提案があれば事務局へ連絡することになっていた。それを踏まえ、今回事務局で修正されているので、修正案について事務局から説明をお願いします。

事務局（河部地域起こし推進課長）

(配付資料により説明)

平田座長

ただいま事務局から提示された修正案に対して、意見などの発言をお願いしたい。

(意見等なし)

御意見などがないようなので、事務局の修正案を本懇談会の最終案とすることにしたいがどうか。

(全員了承)

それでは、事務局の修正案を本懇談会の最終案とする。

事務局（河部地域起こし推進課長）

それでは、こちらの区のまちづくりの方向性については、本懇談会の最終案ということで、総合計画審議会に提出させていただく。

なお、基本計画への反映については、各区のまちづくりの方向性の全体調整の中で、今後も文言の修正等があることがある。その修正等があれば、事務局から皆様に報告させていただく。

事務局（建部佐伯区長）

まちづくりの方向性は、議会で審議をしていただき、広島市総合計画基本計画の本体に載る文書になる。各区のまちづくりの方向性を8区分全部並べていくので、佐伯区の取り組みはこうなるということで、今後、文書に残っていくことになる。

区の目指すべきまちの姿については、あいうえお作文的なものにしてみたのだが、区の目指すべきまちの姿というのは、市から、作っても作らなくてもいいと言われている。いわゆるキャッチフレーズとして、何か佐伯区として目指すべきまちはこうだというものを端的に何か表現できれば、それを作ってもいいということである。敢えて作らなくてもいいと言われているものである。

コラボシティというのが今の佐伯区のキャッチフレーズになっており、こちら、コラボシティというのが英語を使っているということと、なかなかイメージしにくいというのがあるのではないかとということで、ほとんど今はどこにも使われていないような状況になっている。

そういう意味で少し分かりやすく、ある意味、陳腐な表現かもしれないが、佐伯区ということで、「ささえあい、えがおあふれる、きぼうのまち」という表現にしてみた。これは事務局の案として整理してみたものだが、それについて皆さんから何か、やはりこれ陳腐だから、ほかの表現に変えようとか、あるいはこんなものなくてもいいんじゃないかとか、そういうのがあれば、その辺、皆さん、どのような思いを持たれているかというところで、意見を聞いてみたいと思うが、いかがだろうか。

久保田副座長

何か語呂合わせのような形で、少しからかっている気もしなくもないので、これから先、表に出して使えるということがあるのであればまだいいが、「ささえあい、えがおあふれる、きぼうのまち」というのを佐伯区で使うというのは弱いかなという気がするので、無理になくてもよい気がする。

古川委員

キャッチフレーズの件だが、実は10年前に私、委員として参画しており、コラボシティ佐伯区というのが、非常に分かりにくく、あの当時でコラボを分かる人がいるかないか分からなかったが、これが図らずも佐伯区のキャッチフレーズになるということで、内心では非常に解せない気持ちで10年を過ごした。

しかし、今回こうして佐伯区をこのように表現されたというのは、10年前を知っているからこそ非常に評価できていると思う。コラボの前はもうちょっと分かりやすい、佐伯区へ住んで、いいキャッチフレーズで非常に愛していた。それがいきなりコラボいう、どこへ飛んでいったか分からないようなもので、驚いた。

その解釈として、協働という言葉が出た。何か漢字でコラボをこじつけたような気もしたことを懐かしく思う。

10年たってやっと分かるキャッチフレーズになったというような気がするので、今回のキャッチフレーズは分かりやすく、いいと思う。私は十分に評価できると思う。

鉄村委員

私も賛成のほうだが、五日市中央のほうも、さえきのさを、「ささえあい」、社協も「ささえあい」ということで新聞に出している。非常に語呂のいい、皆さんが一緒になって支え合っていきたいということで、賛成である。

井唯委員

これから、一般市民の方や区民の方々へまちづくりというものが表に出ていくわけである。ただ、まちづくりだけでは、みんなもなかなか理解できないだろうということで、ここにあるキャッチフレーズは、非常にいいと思う。さらにいいものと言われても、なかなかいい案も出てこないし、こういうイメージのものが表に出るということは、非常に活力がつくし、夢と希望といったものを含んでいるので、この案で結構じゃないかと感じている。

事務局（建部佐伯区長）

いい案だという御意見と、なくてもいいんじゃないかという御意見もあった。できれば佐伯区はこんなまちなんだと、言葉で分かるような、端的な言葉で分かるようなものを何かつけたいという思いがあって、いろいろ考えた結果がこれだったわけだが、使い方だと思う。どういう形で使っていくかというのも、我々も考えながら、これを残させていただき、使い方については、またしっかり考えさせていただく。あるいは場合によっては、皆さんもいろいろな機関紙、団体の機関紙の中でも、こういうことを紹介していただくというようなこともあっていいのかと思う。久保田副座長、なくてもいいというような御意見をいただいたが、いかがか。

久保田副座長

さえきの語呂合わせがいいのかどうかと思っただけで、こういうまちを目指すという一言はあってもいいと思う。

事務局（建部佐伯区長）

支え合うというのは、今、どこもそうなのかもしれないし、非常にありふれた言葉かもしれないが、ありふれた言葉を原点として、そういうまちにしていきたいという思いも込めたいというのがあったので、これを出させていただき、どういう形で使うかということについては、また我々のほうでも考

えていきたいと思う。

平田座長

続いて、区のまちづくりの方向性に基づく主な取組について議論していただく。

先ほど本懇談会の最終案としてまとめた、区のまちづくりの方向性に基づき、これからこういった取り組みが考えられるかについて意見交換をしていただく。

まずは意見交換方法についての事務局案について、事務局から提示していただきたいと思うので、説明をお願いします。

事務局（河部地域起こし推進課長）

（配付資料により説明）

平田座長

アクションプランに掲載する主な取組として、まずは既存事業について事務局で整理されたということである。その内容について、事務局から説明をお願いします。

事務局（河部地域起こし推進課長）

（配付資料により説明）

平田座長

ただいま説明があった、この「議事資料2（別紙）」をもとに意見交換をしていただきたいと思う。

こちらの資料の表の中、一番右の欄「事業名（参考）」の中に記載されている事業については、各種団体の関係者として携わっている委員の皆様も多いと思う。そういった中で、これらの事業の中からよいところ、悪いところといった感想でもいいので、改善すべき点、今後も継続すべきかどうかといった意見など、御発言をお願いしたい。

事務局（河部地域起こし推進課長）

一言補足させていただき。これから委員の皆様方から御発言いただく意見については、今後、事務局がまとめるアクションプランへ反映させるとともに、本懇談会には、区役所で事業を担当している市民部長、厚生部長、農林建設部長も同席しているので、今後の事業の執行に生かしていきたいと考えている。

平田座長

このことに関しては、委員の皆様お一人ずつから御発言をお願いしたいと思う。今回は、六拾部委員から時計回りの順でお願いしてよいか。

六拾部委員

ここに書いてある事業について、事業見直しではないが、これは外すというようなものは基本的にはないと思っている。こういう項目の中で、さらに新たなものをいかに工夫していくかということではないかと思う。基本的にこの中で、これは効果が上がっていないからやめたらいいというようなものはなかったように思うので、さらに、いかにこれを実のあるものにしていくかということではないかと思っている。

今後の新たな取組についての提案は次回ということなので、そのときにさせてもらう。

光井委員

ここに書かれている事業に関しては、このまま継続されていったらいいと思うが、一番最初の湯来地区における農林業就労者の増加云々いうところで、ひろしま活力農業経営者育成事業というのは、これから、今年から始まるものなのか。

事務局（大畦農林課長）

来年の4月から移住して農業を始める。

光井委員

半林半Xは今実際やられているが、これから10年先のことを考えると、この辺も、年数を区切ってやられたほうがいいと思うので、結果をおさらい、総括してもらい、よりよいものになるように、どんどん変えながらも、本当に移住してもらってやってもらえる形を作ってもらいたいと思う。

3番の地域力を高めというところの、中山間地域における湯来地区の活性化、もろもろあるが、基本的に人がいないと何も動きはとれないと思う。定住促進なり移住環境の整備なり、いろいろなことを、地元だけではできないので、行政の力を借りながらやっていかないといけないと思う。この辺ももうちょっと踏み込んで考えていただけたらと思う。

益本委員

一つ気になるのは、大型クルーズ客船の寄港を生かしたまちづくりというのがある。大型クルーズ客船が来るのは、正式には、広島港の五日市埠頭になるが、佐伯区だけであるので、駐車場はあまりないものの、もう少し工夫し、人が集まる観光資源をさらにアピールしたらいいと思う。

また、湯来町と合併し、面積は4倍になったが、人口は今6,000人ぐらいで、ぜひ広い湯来町を何とか工夫して、人が集まる場所にしてもらったらと思う。子ども会で何回か湯来東小学校などでキャンプをしたことがある。

増田委員

自主防災会としての考え方を述べさせていただく。災害時避難行動要支援者に対する取組について、先般、自主防災会、町内会、社協、民児協、行政の区政車座談義において一定の方向性が確認できたことは、ありがたく評価をしている。

今後は、それに対する要支援者支援の具体的な取組が各学区、地域において、各自主防災会で進められるものと思っている。これに期待をしている。

ただ、一般住民の避難意識に危機感があると思っている。

昨今、身近に起きている災害に対する危機感は皆さん持っておられるが、現実には避難行動というのは、なかなか難しいものがあり、先般6月7日に警戒レベル4が出たが、避難者も極めて少ないということで、実態はなかなか訓練とは別で進んでいないと思う。

私、地域は八幡地区だが、誰も来てくれない。ただ、土砂災害警戒区域は当然あるので、本来は逃げるべきということがある。

なぜ逃げてこないのかということも、今から考えていかななくてはいけないと思っている。それはテレビ、ラジオ、それから新聞報道、マスコミですずっと連載なりで、なぜ逃げないのかということが出てきている。

私も新聞に目を通しながら、なかなか逃げないなど。生まれてこの方、ここは安全で災害もないし、逃げなくてもいいという考え方が多いということだが、今回、新たなレベル1から5までが出てきたので、これを自主防災会も住民の方に対して避難するという啓発活動を浸透させなくてはいけないと思っている。これが自主防災会としても大きな課題と考えている。

今後、こういった中で、言葉ではいいが、実際に行動しないと何も役に立たないので、その辺の整理が必要になってくると思う。

また、災害の種類も地震、大雨、土砂災害、津波、高潮などいろいろな状況が出てくるが、住民自らが、危険度を認識し、避難経路の確認も随時やっていかななくてはならないと思うし、マップ作りも進行しているので、これを継続していただければと思う。

また、佐伯区における雨量計の設置について、どこにどれぐらいあるかということも把握していきたいと考えている。

防災カメラの設置に補助が出るようになってきているが、どこに設置すれば本当に役に立つのかという

ことも検証しないと、テレビで見たときには、土砂が流れているという声があるので、防犯カメラとはちょっと違う意識が必要である。その辺も検証しながら取り組んでいきたいと考えている。

古川委員

連合町内会長の立場として、町内会のことを考えたが、参考資料1の9ページのところで、前回、町内会は色々問題が大きいと発言した。地域としては、加入率は落ちているが、町内会は大変な状況にあるということを表現している。この大変な状況とは、もう少し具体的に言うと、一口に言うと、町内会につなげるものがなくなったと、必要なものがなくなったと、これが一番大きな問題である。これを何がなくなったかというのは、ここで皆さん、分かっておられると思うので、それは敢えて言わないが、そこら辺りが今から町内会そのものを継続していくためには、それに代わるものを探っていないといけないと思う。

今、増田委員が述べられたように、避難行動要支援者支援事業のところで、車座談義でこの問題、本当に正面から取り組んでやられた。こんなやり方があったのなら、早くやってもらえばよかったと、実に町内会としては、要支援者というのは避けて通りたいような、大変な問題であるので、いろいろ考えたが、こうして民児協、それから自主防災、それから社協、町内会、4つと行政が集まり、話し合いをしていただいたということで、非常に方向性が明確になり、今回出された警戒レベル5つの説明でも、これを基本に話をしたら、よく理解ができたということで、非常に期待しているし、これほどすばらしいものはなかったような気がする。今からいろいろな問題が出たときには、こういった方法で実施されるようお願いをしておきたい。

それから、各種イベントの中に、八幡川のリバーマラソン、佐伯区民まつりがあるが、ここに区民スポーツ大会を事業名の中に入れてもらえればと思う。なぜかと言えば、八幡川リバーマラソン、佐伯区民まつり、区民スポーツ大会、それぞれ違う。参加する選手も対象も違うが、これこそ私は佐伯区の三大イベントであると思っている。それだけ非常に注目されて人も参加する。特に区民スポーツ大会は、若者の祭典ばかりでなく、高齢者も行事があるので、できればせっかく八幡川リバーマラソンと佐伯区民まつりが同じ土俵にあるなら、区民スポーツ大会も入れてもらいたいと思う。

それから、五日市の自由通路は、今は、単なる通るだけの通路になっているようであり、それは当然非常に安全でいいことだが、あれだけの空間があれば、もう少し何か方法を考えてもいいと思う。広島駅みたいな大きなところとは違うが、ミニ的なものでも、もう少し、掲示板だけではなく、楽しいものを見つけてもらえればと思う。

いろいろあるが、私はこうしてまとめられたことを一つ一つ見て、町内会活動を進めていくためにも、本当に大きな大きな資料になる。本当にありがたく、感謝を申し上げる。

平田座長

後ほどまた記載されていない主な事業については伺いたいと思う。今言われたことは入れさせていただきますと思う。

肥後井委員

福祉の関係のことで少し言わせていただく。

福祉関係の事業はたくさんあり、名称も非常によく似ている。対象者の方が非常に迷われるといったことで、もう少しわかりやすくまとめられるものはまとめていただきたいと思う。

それともう一つ、この中の事業で、特に地域共生社会の実現と地域コミュニティの充実、こういった事業について非常に関連性があるので、その辺を提言していただいたらどうかと思う。

橋本委員

青少年健全育成というところから来ているが、私自身が約20年、ずっと子どもたちを中心にした目で接して、ここに来ているので、そういう目で話をさせていただくと、2番の中の防災・防犯活動のところでの子どもの登下校における見守りや夜間活動を促進するというような内容のところは、今後も見込んでおられるところで、意見を出したいと思っている。3番の地域力を高めるというところ

に関しても、大きくつながってくるのは、ずっと昔からお年寄りがおられて、子どもたちがいて、その間に青年団的な30代、40代、50代の集まりなどが昔はあったと思うが、それがぼんと抜けてしまい、ここ20年、30年来ていると思っており、約15、6年前から特に佐伯区を中心に、おやじの会とか父親委員会とかいう形で、PTA、保護者を中心にした若い人たちが地域に目を向けるという活動を組織的につくってきた。

各学区でそういった若い人たちが活発にやっているところもあれば、まだやってないところもあるが、ここ15年で地域に根差した地域の特色的な動きをしているところも増えているような気がする。そこも区行政と連携を図りながら、地域コミュニティ、三世代交流事業というところに本当に力を入れていっていただければと思う。

井唯委員

私はシニアクラブという立場で一部見させていただいたが、全般を通して不要なものが一つもない。大変いろんな諸問題に現在取り組んでおられるということで、感心している。

この中で、地域支え合い事業は既に観音西学区において、支え合いのネット教育がスタートし、大変前向きにどんどん進んでいる。ほかの地域でなかなかまとまらないというような状況もあるので、いろいろな角度でPRし、さらに拡大するということを、まずやっていかないといけないというものに、啓発がある。

それとシニアクラブとしては、我々の活動テーマの中の大きな一つに見守りというのが入っており、会員同士の形のものはどんどんやっている。

しかし、一般住民に対してはなかなか、手が出せないのが、地域でのネットワークというのが必要だというような位置付けになるだろうと思う。

それで、会員同士についても、だんだん高齢者会員もまた増えているので、そういった形のものをさらに拡大し、カバー率を佐伯区の中でも上げていくということになると、会員とか組織の拡大というのが当然必要になってくるので、そちらの方向にシニアクラブとしては向かうということで頑張っている。ぜひ他の団体や行政関係について、拡大支援というスタンスでお願いしたいのが見守りである。

それと、ふれあい運動会が毎年10月に実施されているが、これは、身体障害者の方々を一堂に集めて、スポーツセンターで身体障害者福祉協会と共同で実施している。ただ、この大会が今、前の老人クラブですが、同じように選手として身障者の方とやるわけで、だんだん選手を集めるのが難しいというような時期になっており、若い人も増えますので、徐々に体制維持はできるだろうと思うが、シニアクラブ以外の体制を入れ込むというような形のものは、ぜひ運営上、考えていかないといけないだろうということで、ぜひその方向をお願いしたいと思っている。

先ほどのふれあい運動会ですが、これはすごい。こんなイベント、ほかの市に行っても、ちょっとない。非常にすごいものがある。ぜひこれは継続していただきたいということと、実は学区のほうで観音学区と観音西学区で、区民まつりの1週間後に地域での三世代交流イベントというのを組んで毎年やっている。条件的にふれあい運動会の後で厳しい面もあるが、大変効果的にたくさんの方が、要はそういったふるさとづくりとか、そういうまちをつくるということでやっているが、大変経費がかかっており、財源的に非常にきつい面があるので、これも安定的なものにしていけないと、継続が非常に難しいというような点もある。そこで継続的に支援できるような制度も、ぜひ行政としても区としても検討いただきたいと思っている。

最後だが、観光関係の大型クルーズ客船が続いてきているが、非常に宣伝効果もあって立派なもので、まちも活気づいた雰囲気が出るが、このイベントが外国人をおもてなしするというようなスタンスのイベントなので、地域のものがみんなそこに寄って、大型クルーズ客船を楽しみながらやってくということになると、まだまだというような段階だろうと見ている。ぜひ一般区民を巻き込むような形で、この大型クルーズ客船を迎えるというような内容の改善とか、その辺の検討をしていただいたらというような点も気づいた点である。

井戸委員

女性会のほうから参加させていただいている。女性会も高齢化が進んで、女性会の会員が減りつつある。シニアクラブさんがいらっしゃるが、女性会からシニアクラブさんのほうに移るという状況になっているし、若い方の会員がなかなか増えていかない。

藤の木団地については、地域全体、団地そのものが高齢化していったって、町内会にもなかなか入ってもらえない。それで、高齢者のみならず、若い方も町内会に入らない。地域活性化をするにしても、何かイベントをやろうとしても、なかなかそれが難しい状況に今後なるのではないかと、みんなで話をしている。私は、町内会に関わって20年以上になるが、20年前のメンバーとほぼ変わっていない。

団地という特殊性もあり、今、藤の木団地は結構スーパーもあるし、コンビニもあるが、これがある日、突然、撤退されたら、どうすればいいのだろうかという危機感は常に持っている。

それからバス、公共の交通機関も、藤の木は割と便利がいいと皆さんおっしゃるが、これも乗らなければ、バス会社はボランティアでやっているわけではないので、皆さん、乗りましょうって声をかけるが、若い方も高齢者も皆さんも、車で出入りされるので、私が、バスに乗って市内まで出る時には、ほとんど貸し切り状態である。バスセンターから藤の木に帰るとき、私一人乗っているの、そこが何とかならないかと思ひ、いろいろお話をするが、実感としてまだまだ皆さん、車に乗ることができるので、危機感を持っておられない。

今、世間を騒がせているが、高齢者の方の運転の事故が多いということで、これらもいろいろ考えていかないといけないと思っている。どうすればいいかという、具体的なことがなかなかあがってこないが、そういう状況でいろいろ悩んでいる。

上土井委員

私が直接関わっているのは、ふれあい運動会。先ほど、ほとんど井唯委員が私の言いたいことをおっしゃったが、障害者と高齢者の親善交流ということで、障害者というのは、身体障害だけでなく、知的も精神も全部の障害者を入れて障害者という名前になっている。

先ほども井唯委員がおっしゃったように、他の区でもふれあい運動をやっているようだが、ここまでの規模の大きいのは聞いたことがないと言っておられた。これもスポーツ推進委員の人、手話などのボランティアの方の協力のおかげで成り立っているが、ただシニアクラブさんのように、障害者も高齢化しており、なかなか参加者がおられないのが残念である。それで「市民と市政」にイベントの紹介してもらっているが、もう少し何かPRでいい方法はないかと今考えてはいる。社協さんとかシニアクラブさんとか順源会さんとか、いろんなところで協力してもらって、何とかみんなで交流をしている。ちなみに、今年は10月27日にやる。

それと先ほど自主防災とかの避難の話があったが、私も先日、広島市で障害者たちの意見を聞く会で災害に関する話があり、ずっと以前、ほかの会に行って、車椅子の方といろいろ、もちろんこのとき東日本の件であるが、話したときに、もし万が一の災害のときにうちに来なくていい、助けなくてもいい、川や道が瓦礫いっぱいになって、車椅子で避難するのは絶対無理だから、もし生きていれば、それは運がよく、助けに来てもらって、助けに来た方が事故に遭ったら逆に申しわけないからということ言われて、ショックだった。そういう方もおられるんだなと思ひ、そのときにも聴覚障害の方は雨などのときに、スピーカーで回られるが、全く聞こえないからどうなっているかわからない。どこへ逃げていいかわからないというようなことも聞いた。

また、湯来の件だが、私の友人が軽井沢のほうに移住して住んでおり、そこで農業などをしながら生活できるシステムはないかというような状態である。以前、よその県は少し聞いたことがある。平日も、音楽会をしたり、画家の人が来たりして、みんなでいろんなイベントをやるなど、湯来はそういうことはまだ考えておられないのか。安く空き家を貸すなどが考えられる。

木元委員

農業関係のほうでお話をさせていただく。

一番上の豊かな自然の環境の維持・活用というところで、植林して30年ぐらいたった山の木を2年前に間伐してもらった。間伐後に行ってみたら、間伐した木が倒れたままになっており、もったい

ないと思った。そんな間伐した木を何か活用できることがあれば、ぜひ活用していただきたいと思う。

お聞きするが、湯来町でも木を使ってボイラーのかわりに薪の木を使って、クアハウスのお湯を沸かすと聞いたが、そういったことはまだ進んでないのか。

私も湯来町農事研究会のお世話をしているが、年々高齢化が進み、だんだん難しくなっている。今農協さんがバックアップしてくださり、いろいろと市へ出したり、農協関係のほうへ出したりしているが、湯来町は空き家が多く、ひとり暮らしがすごく今多い。若い人が余りいない。子どもさんがいない。上水内の西小学校が8名、湯来の水内の東小学校が20名、湯来中学校でも20名ちょっと切ったぐらい。だから、すごく子どもさんがいなくて、ひとり暮らしで、また空き家、2人暮らしなど、そんな感じ。

何か活性化できるものがあればいいが、今は現状維持で、だんだん高齢化してきている。

國澤委員

今湯の山のほうに住んでおり、いろいろな活動をしている。

活動させてもらう中で、第一番に若い人が湯来へ帰ってきてくださるが、収入の面で生活ができないということで、若い人がせっかく入ってきてこられても、2年ぐらいすると、ここでは子どもを育てて食べていくことができないと言われて出ていかれる。もったいないと思うが、仕方がない。

農業にしても、湯来町は中途半端なところで、すり鉢のようになっているから、なかなか大規模な収入を得る農業ができないと思う。そこを開拓して、広い農地にして、会社か何かで経営して、きちんと生活できるようになると、若い人も入ってきてくださると思う。高齢化して、なかなか今いる湯来町の住民で何かしていこうというのが一つ欠けていると思う。

また、動物の害がひどく、最後には人間がおりのの中に入って生活するような感じで、作物を作るのに皆、囲いをして、電気柵とか何かして一生懸命作物を作っているような状態である。

やはり若い人に入ってきていただくには、今交通面では道路も整備されてきて、通勤もしやすくなっているの、よくなってはきたが、もう一つ、農業をしていくには、収入を得る面で何か会社組織で収入源になるようなことがあったら、若い人も入ってくる。

それと一つは、会社を定年された方が結構湯来町に入ってきてこられる。それがなかなか活力にならない。湯の山のほうでも何軒も家を建てられているが、活力になって一生懸命やっていたらこうというのが、まだもう一つである。

それと、自然の山の木はたくさんあるので、私も観光協会としてマキアートでアートをつくったらどうだろうかということで、マキアートを立ち上げており、伐採した薪や倒れた木などを業者に頼んでタイアップし、3年してみたが、それから先が続かない。山から木を出すというのが大変で、それでこの組織はもうだめだ、やめようということでやめていく。いろいろと立ち上げてはみるが、資金面のことや労力や歳をとることもあり、続けていくことがなかなか大変である。

それで、今、クワハウスで薪をたこうということで、国の組織で取り組んでいる。今、農村環境改善センターで木材を薪にするように整備し、そこで2年ぐらいの薪はたかれると思うが、3年目がどうなるか分からないという話をしている。灯油をやめて全部薪にするのではなく、7対3か6対4ぐらいで薪を使っていくよう取り組み、もうすぐ薪がたかれると思う。

それと、砂谷牛乳さんが牛乳フェスティバルをずっとしてこられているが、これも大変なフェスティバルである。雨が降ると牧草地が全然使えなくて中止になる。酪農部会さんが砂谷牛乳さんと組んでやられるが、これが大変なイベントで、2年続けて雨が降って、PRが行き届いたからやめようということで、去年終了になった。終了となったら、もう一回復活してほしいという声がすごかったもので、復活してほしいと思う。

また、湯の山温泉のほうには、昔からの湯治場があり、湯の山明神さんという立派な社もあるし、この明神さんというのは、全国的にも湯の山だけ組織がしっかりしている。そして、社もしっかりしている。それで、松井市長が、カープの松田オーナーと掛け合ってください、今2年ほど続けて、カープの選手が若鯉、それからお城の鯉と、湯の山の滝登りの鯉と、カープの若鯉とで、さあみんなが「こい」ということで、入団祈願に来てくれている。去年、今年と、私たちも由宇のほうに応援に行かせてもらっているが、湯の山もみんなが、行政や佐伯区民の方々に後押しをしてもらい、少しずつ

だがやっている。

それと、湯来には湯来のホテルまつりと湯の山の桜まつり、湯の山には立派な桜がある。日本百選に選ばれたすばらしい桜があり、それをもとに桜まつりと湯の山湯治場まつりなどを行っている。

もう一つ、大きな祭りとして、昔、湯来ふるさとまつりというのがあったが、それが五日市商工会湯来支部に引き継いでもらい、湯来フェスというお祭りにかわり、大きなイベントをしている。交通手段がないため、イベントに湯来町内の方々が参加できないのは気の毒である。五日市からが7で湯来町内が3ぐらい。来たくても交通手段がないので来られないという声を聞くと、どうにかしてあげたいと思う。いい知恵があったらお借りしたい。

それとお店がだんだんなくなってきて、買い物物が皆不自由なので困っている。またいい知恵があったらお借りしたい。

清水委員

4番のまちづくりの方向性、人が集い交流する、にぎわいのあるまちづくりのところで、(1)の各種イベントで、今アートフェスタ、八幡川リバーマラソン、区民まつり、大型クルーズ客船の寄港を生かしたまちづくりというのがあり、その横に商店街や区民が主体となったイベント、祭りなどを開催することで、商店街等の活動が活性化しとあるが、残念ながら、このイベントの中で商店街の活動が活性化しているかという、活性化には余りつながっていないと思う。それはイベントの内容が悪いわけではなく、商店街自体に問題があると思う。10年前に商店街が13あったそうだが、今実際に活動しているのは9商店街である。そして、まだ頑張ってる組合員を増強している商店街は、コイン通りと楽々園だけだと思う。今皆さん、商店街で買い物をすることが減ってらっしゃると思う。大型店ができたり、ショッピングモールができたり、そしてネットでお買い物することが増えたりということで、商店街はどんどん厳しい状況になっている。お店の方も高齢化して、後継ぎがいない。

こういった状況の中で、イベントをしていくことはとても大変なことで、組合自体の財政が豊かであれば、委託するなどしてできるが、組合員の増強もなかなか大変で、コイン通りも事務局の給料を払うのがぎりぎりのような感じの中でやっているの、どうしても手伝ってくださる特定の方にすごく負担がかかっている。コイン通りで土曜夜市をやっているが、水分をとる暇もないぐらい、本当に死にもの狂いな状況でイベントをこなしているのが実情である。

だから、商店街でどうしたらいいかという、消費者の買い物スタイルも変わっているというのがあり、すぐには解決できないかもしれないが、なるべく商店街でお買い物をしてもらいたい。昔は、お酒、たばこは町内で買いましょうというのがあったと思うが、商店街で買い物をしないということは、地元の経済が縮小するということになる。買い物難民の問題もあるし、商店街がなくなると町が荒廃してしまうので、安心・安全な町というのもできないと思う。商店街はこんなに大変なんだということを訴える機会がなかなかないので、今日言わせてもらおうが、ぜひ御協力をいただきたい。

区のほうからの商店街の補助金も、コイン通りはお世話になって助かっている。しかし、新しいイベントには補助金が出るが、既存のイベントにというのがない。なかなか新しいイベントを立ち上げる余力がない。既存のイベントも認知度が高いしやめるわけにいかない。イベントというのは、その商店街のお店のにぎわいとか、集客だけではなく、コミュニティのことや、お客様みんなが集う、地域が活性化するという役割を担っていると思うので、ぜひ、今の既存のイベントを皆さんのすごく大変な状況を少しでも和らげながら、長く続けていきたいと思っているので、今この場で言うのは違うかもしれないが、補助金のほうも、もう少し使いやすい、補助金であればとても助かると思っている。

そういうことが解決されれば、いろいろ今までやってきたこういう既存のアートフェスタや区民まつりは、区民の方が喜ばれるお祭りで、たくさんの方が集まるので、ぜひこういうことも商店街と一体になって活動をしていけば、もっともったいいものができるんじゃないかと思う。ただ、今商店街が一緒になってできる、元気のあるところが少なくなっているの、まず皆さん、商店街でお買い物していただくよう、よろしくお願ひしたい。

鉄村委員

まず、継続という形での話し合いだが、この「議事資料2（別紙）」の2枚につきまして、私は非常

に頑張っておられ、継続をしていただきたいと思います。

ただ、継続については考えなければならないことがたくさんあると思う。例えば区民まつり、大半が集まってくるのが五日市学区、五日市中央学区、それから五日市東学区、廿日市からおいでになったり、西区からおいでになったりと。湯来のほうからおいでになるというのは、私は個人的にはあまり聞いてない。なぜかという、交通の便等々があると聞いている。

佐伯区の祭りということであれば、みんなが知恵を出し合い、全佐伯から来るような形をとっていただけたらと思う。いつも思うが、行政だけではなく、要は一緒になって自助、共助、公助でやらなければいけないと思う。

防犯と高齢者の立場で話をさせていただくと、防犯についても予算がない。皆ボランティアで青パトに乗ったり、子どもたちの見守りやってもらっているわけだが、そういった支援が行政のほうから少しあればと思う。これはおねだりになるんで、やるということになれば、地域が知恵を出し合って続ける必要がある。青パトを買うのも、地域の方の全部寄附である。

イベントとしては、区民ウオーキング大会やリバーマラソン等々あるが、これらは出る人が固定化しているのではないかという感もある。全てぜひ継続をお願いしたいという中で、知恵を出し合い、人が集まる、集まりやすい、そういう形にしていけたらいいと思う。

先ほど橋本委員から話があったが、佐伯区は特におやじの会という、若い層が非常に活発であるその他の7区から聞いている。そういう意味では、そういった若い人を仲間に入れて、例えば、五日市中央学区では、敬老会や運動会、とんどなど全ての行事に、おやじの会に手伝ってもらっている。

私も、後期高齢者だが、皆さんの話を聞くと高齢者ばかりで、若い人がどこにいらっしゃるかなというようにことだが、おやじの会に、言葉は悪いが、一緒になって力仕事をしてもらい、その分、我々年寄りには知恵を出すということで、これを自助、共助、公助ということでしてもらえればと思う。

久保田副座長

方向性とか目指すべきものというのは、そんなに変えることができるものではないので、このとおりとして、事業もこの事業がよくて、この事業は悪いということではなく、その事業をどういった狙いでやるかということに尽きるので、これもそんなに変える必要はないと思う。

ただ、この10年間で何を失ったのかといえば、若年層の意識の変化だと思う。もっと極端に言えば、共助の精神が薄くなった。助け合いやお互いさま、奉仕という精神が薄くなってきたので、その形が町内会への未加入という形で入ってきている。

お互いさまという精神、助け合いの精神を育てるために、あらゆる団体がいろいろな事業を打っている。突き詰めるとそこに尽きると思うので、これがなくなっていけば、まちづくりはできないと思う。

共助というのがある程度、全体にかかってくる問題なので、助け合いの精神をもう少し若い人たちに分かってもらうよう、理解してもらえるよう、言ってもなかなか難しいが、言わなければ何もないので、そういったことを全体でイベントをするときに、できれば、この事業はこういう狙いでやっていますというのをはっきりし、そこに、できれば助け合いというような言葉がひとつ入れば、全体にそのことが生きるという気がする。

自助、共助、公助があるが、共助がたぶん一番しんどいと思う。圧倒的に弱い力になっている。これが地域力という形になるので、ある意味では全体の精神として助け合いということがある程度必要ということである。

福祉というのを一言で言えば、助け合いである。福祉の関係だが、非常に弱っている。いつまで続けられるか分からない状況というのも、まさに今のそういった精神が弱っている、助け合いをしなくてもいいじゃないかというような時代になってきているということがあると思うので、まちづくりをしたら、それが絶対ゆずれないので、共助の精神をできるだけ全体に把握、広げていただければありがたいと思う。

事務局（大畦農林課長）

先ほど農林関係についての御質問があったので、3点ほどお答えする。

まず1点目が農林関係、農業、林業を志す方を移住させて、そういうことを始めさせる取り組みをもう既に始めている。

林業に関しては、平成29年4月に移住し、3年間の研修ということで、29、30、令和元年と、今3年目の研修に入っている。来年の令和2年4月からは、そういった林業に従事しながら、林業だけで食べていくのは厳しいので、それ以外の仕事も見つけながら自立していくということになっている。林業については、しばらく間が空いたが、今年度募集し、また来年4月には湯来町に移住するという人を今から募集する予定である。

農業に関しては、前年度に募集し、現在、安佐北区の高陽で研修を受けており、来年の4月に湯来町に移住し、農業を始める。第1号が入ってくる予定である。

続いて、農業、林業ともに、今年度、林業1名募集、農業2名募集し、また来年の春以降、また入ってくるという取り組みで、しっかりやっていく予定である。

2点目として、間伐材の活用と、薪ボイラーの導入であるが、今年度、湯の山温泉のクアハウス湯の山のボイラーを薪ボイラー、木を燃やすボイラーを導入する予定である。それに伴い、現在、湯来東小学校の麦谷というところの薪の加工場を市の経済観光局が整備している。その運営は地元のほうでやっていただくということで、今現在、その調整、準備を進めているところである。そのボイラーが来年春稼働し、年間で600トンぐらいの間伐材等を薪にして使っていくという計画になっている。

3点目として、毎年10月の初めの日曜日に開催されていたおいしい牛乳フェスティバルというイベントだが、砂谷牛乳株式会社の前の牧草地でやられていた。それについては昨年から中止になっており、國澤委員の熱い思いは主催の酪農部会、それから砂谷株式会社、牛乳の会社のほうにしっかりお伝えしたいと思う。

事務局（竹内厚生部長）

厚生部長として幾つかお答えをさせていただく。

まず一つは、肥後井委員から御指摘があった、各種イベントがたくさんあり、地域共生社会実現とコミュニティの両方に関わることがあるので、もう少しうまく整理をしてということがあったが、これについては改めて考えさせていただき、次回まで整理させてもらいたいと思っている。

また、井唯委員、上土井委員、鉄村委員から、個別事業で地域支え合い事業、ふれあい運動会、あるいはウオーキング大会での課題が御指摘されたが、これについては今後、どういうふうに対応するか、この計画とは別に、事業を運営していくところで、課題解決に向け、主催者側、あるいは委員さんと一緒になって考えさせていただきたいと思っている。

事務局（建部佐伯区長）

皆さん、非常にいい意見を言っていたと思う。

それぞれの団体として直面されている課題や、いろいろな問題、また感じておられることを伝えていただいたと思う。

今お聞きした中で、この事業名の中に変えたほうが良いと思うものも幾つかあった。また次回、これからの取り組みというところで、こういうものをやったらどうかというものを提案していただきたいと思う。また次回以降、議論させていただくが、我々なりに整理し、こういう取り組みをしたらどうだろうかという提案ができるものがあれば、また皆様にお示しをしたいと思う。

そしてもう一つは、行政による効果的な支援というところで、こういう支援があったらいいというお話もいただいた。そういったものも我々なりに整理し、次回以降、お示しできると思う。

平田座長

引き続き、議事資料2の別紙をご覧ください、一番右側の事業名の中に、委員の皆様が地域や団体として取り組んでおられる事業で、記載されていない主な事業があれば、御指摘をお願いしたい。

既に、区民スポーツ大会、三世代交流会や湯来の桜まつり、湯来フェスなどが先ほど挙げられたかと思うが、他にあればお願いしたい。

さらに、取り組みの中に記載されている文言などについて、追加や修正を加えたほうが良いといっ

た内容があれば、あわせて御指摘をお願いしたい。

國澤委員

湯来町で今年、第1回のササユリマラソンを立ち上げる。4月から月に2回ぐらい会合を持ち、準備を進めている。宮島で45回開催されたマラソンを休まれて2年ぐらいになるそうだが、全国的に近県でどこかでやってほしいということで、行政から紹介してくださったんだと思うが、その組織の方々が応援するので、ぜひということで、湯来町も何か受け入れていかないと、お客さんに来てもらわないと、閑古鳥が鳴いて大変であることと、たくさん施設ができており、公共のグラウンドもでき、かかしの里もある、いろんな遊びも、民泊も里山もできているので、そこを皆様に知ってほしいという意味もあり、上多田の住民の方々と協力してササユリマラソンを立ち上げ、11月23日の開催を予定している。今、一生懸命頑張っている。またパンフレットができれば皆様にも改めて紹介する。

橋本委員

まちづくりの方向性の中で、皆さん御承知のように、今、全国的にいろいろな事件が起きている。そういう中で、安心して住むことができる佐伯区という観点からも、防犯のところが、行が少な過ぎるように感じており、内容はまだまだたくさんあるので、もう少しスペースをとっていただきたい。

井唯委員

これは区民全体ではなく、シニアクラブとして、健康増進ということで、グラウンドゴルフ大会を150名規模、また、室内のニュースポーツ大会でペタンクとかクロリティー等を展開し、これも150名規模で恒例的に実施をしている。

平田座長

御意見が出尽くしたようなので、次に移る。

それでは、次回以降に委員の皆様から新たな取組を提案していただくに当たり、参考となるまちづくり活動の手法例について、事務局から説明をお願いします。

事務局（河部地域起こし推進課長）

（配付資料により説明）

平田座長

三田オープンガーデンは、私も4年か5年、ずっと通いつけているが、庭をオープンするのは、来る人のために庭づくりをするのではなく、お裾分けという言い方をされており、オープンガーデンをする組織には地域の退職者の方が多い。だから、高齢者の方のネットワークができ、町の景観をよくするだけではなく、どこかのAさんのところで旦那さんがちょっと倒れたから助けに来てというときに、お互いに助け合うような関係性ができたり、オープンガーデンは結構海外からも人が来られたり、大型バスで見学される団体もいらっしゃって、かなり地域が活性化しているということで、結果的に行政が求められていることを実際に主体的にやられているというので、大変おもしろい活動だと思った。

予定時間が近づいてきたので、まとめに入る。

今回はまちづくりの方向性に基づく主な取り組みのうち、既存分について意見交換をしていただいたが、次回は新たに考えられる取り組みについて意見交換をしていただく。

そこで、先ほど事務局から紹介されたまちづくり活動の手法例を参考に、地域や団体に持ち帰っていただくなどの方法で、次回までに新たな取組のアイデアを、効果的な行政支援も含めて考えておいていただければと思う。

以上で本日の議論は終了とさせていただきます。

〔閉会〕